

『時給1500円も夢じゃない』

(建設会社経営者の発言)

村山市で「北村山産業まつり」を開催



率直な意見が交わされた
トークセッション

森さんはトークセッションで、水道代節約のため子どものお風呂のお湯も節約しているとも発言しています。県労連は産業まつりを機に、こうした「#最賃近傍の声」をツイッターに投稿して可視化することで、最賃近傍の人たちが声を上

五月二十二日、村山市飯葉(しょうよう)プラザを会場に、北村山産業まつりが開催されました。メイン会場受付名簿の三十四人名簿未記載の人を含め、少なくとも五〇人以上の一般参加を得て成功しました。県労連と加盟組織の北村山地域の支部・分会、県民医連、山商連、村山農民連などが構成する産業まつり実行委員会(萩原圭子代表)が主催。全国一律・時給一五〇〇円以上の最賃や中小企業支援の抜本的拡充についての世論高揚や組織強化拡大を目的とした「山形最賃アクションプラン」の跳躍点に位置付けられたもの。



金魚すくいに興じる
子どもたち

時給八五〇円で 子どものお風呂も節約 「最賃近傍の声」もつと!

吉村美栄子山形県知事がメッセージを寄せ、村山市、東根市、尾花沢市、大石田町が後援しました。メイン企画のトークセッションでは三人のパネラーがお話しました。時給八五〇円で働くシングルマザー

の森愛樺さんは「食費や水光熱費を節約」「もし時給一五〇〇円になったら子どもに大学の資金を貯めたい」と発言。(株)ドゥーケン代表取締役で(株)矢萩土建常務取締役の矢萩幸恵さんは「全労連の中小企業支援提言に目からうろこ」。賃金原資の前渡しや社会保険料減免などがあれば「時給一五〇〇円も夢じゃない」と意見表明しました。八幡一秀・中央大学教授は経済における中小企業や最低賃金の役割を解き、中小企業振興条例の制定・活用必要性を訴えました。金魚すくいや地元障がい者施設等の出店、最賃と中小企業支援のパネル展示も行われました。アンケートには「企業側と労働側の声から課題が浮

げやすくするとともに、中央最低賃金審議会や山形地方最低賃金審議会の委員の目に触れるようにする取り組みを呼びかけています。ツイッターはこち



外塚弁護士の解説を受けながら
ワークショップに参加する学生たち

と学生たちを激励。「新しいことを学べた」「面白かった」などの感想が語られました。

山形学生ユニオンは六月十二日山工大工学部内で「ユニオンカフェ」を開催し、クイズやワークショップで労働者の権利を学びました。「使用者は労働者をいつまでも辞めさせなくてもよい。〇か×か」のクイズに

「気づき」を大事に 権利の活用を

×と答え、「なぜ?」と問われて話し合い「人権?」「職業選択の自由?」と回答した学生たち。「それは憲法上大切なこと」と講師の外塚蘭弁護士からコメントを受けました。「人が人を縛るのは原則、契約と法律だけなのに、使用者が一方的に内容を決める就業規則が労働者を縛るのはなぜ?」など高度な問いも登場。外塚弁護士は「まず、おかしいなという気づきが大切。法律が答えを用意してくれていることがある」と学生たちを激励。「新しいことを学べた」「面白かった」などの感想が語られました。

き彫りになった」「お店がとてもよかった」などの感想も。実行委員会は山形新聞折込などで約一万二千枚のビラを活用し宣伝。署名用紙や返信用封筒とセットでポスティングもしました。これに対する返信やまつり一般参加者は今後の組織化につながる貴重な結びつきだとしています。



相談・署名・アンケートコーナー



発行責任者
勝見 忍

山形市薬師町2-6-15

TEL 023(615)2172

FAX 023(615)2173

URL: <http://www.yamagataroren.com/>

Email: yamagataroren@yahoo.co.jp

最低賃金アップ コロナ禍でこそ！

大幅引き上げ・全国一律、中小企業支援の拡充を 全労連北海道・東北キャラバン山形行動



シール投票での対話

全労連・東北、北海道の両地方協議会と山形県労連は五月一七日、山形市で最低賃金キャラバン・山形行動を繰り広げました。両地協がこの時期に毎年行っているもので、今年も昨年に続き感染防止のため各道県の中での行動にとどめました。当

日の行動には、県労連のメンバーに加え県医労連の上田潤書記長も参加しました。最賃引き上げと労働行政の改善、中小零細企業支援の拡充を求め、山形労働局と県に対して要請を行いました。

県労連の勝見議長は、医療、介護、保育、小売り、清掃などエッセンシャルワーカーは「最賃ギリギリの低賃金で女性の非正規労働者が多く、雇用と暮らしが悪化している」と強調。さらに、賃金水準の高い都市部に人口が集中し、三密の原因にもなっていると全国一律化が必要と訴えました。

労働局側は、専門部会の公開について「世の中は公



県に要請する勝見議長

開の方に流れているので、私個人としても努力したい」と述べました。県からは、全国一律化について従来どおり国に提言した他、コロナ禍で影響が深刻な非正規

舟山、芳賀両参院議員が国会報告

県労連と国民大運動実行委の 共催活発に意見交換

県労連と国民大運動県実行委員会は五月二十三日、山形市の遊学館で舟山康江、芳賀道也の両参院議員を招いて「国会報告・懇談会」を開きました。

県労連の勝見議長の進行ですすめられ、山商連の佐藤弘会長が主催者代表のあいさつを行いました。共産党県委員会の本間和也委員長が連帯あいさつ。二〇一六年、一九年の参院選で、舟山さん、芳賀さんを野党統一で当選させた。市民と野党の共闘の一丁目一番地

の女性労働者の賃金改善も加えたことが報告されました。

昼休みには十二人が参加して、街頭行動を行いました。署名に応じた高齢の女性には「年金生活者より低い賃金で働く若者は東京などに行ってしまう山形がさびれる」と語りました。保育園で働いた経験のある女性は「福祉の職場で働く人は激務の割に低賃金です。最低賃金をもっと上げてほしい」と署名しました。



左から2番目が舟山議員、左端が芳賀議員

県春闘共闘 代表者会議開催

山形県二〇二一年国民春闘共闘委員会は六月五日、加盟組織代表者会議を開催しました。

はじめに消費税廃止各界連絡会が開催し大門みきし参議院議員を招いた消費税学習会に参加。コロナ禍で多くの国が付加価値税を下げるなどの中小企業支援をしている中、日本でも消費税の五％への減税がすぐにも必要であることや、インボイス制度の危険な中身を学びました。

その後、二一春闘の交流に入った参加者。「低賃金だと募集しても人が集まらないという長年の主張に使用者側がようやく気付き初任給が改善された」（農協労）、「パートにも一時金が実現」（共立社労組）、「年金裁判は高裁で敗訴が出るなど重要局面。最高裁に向け支援強化を」（年金者組合）、「県民ホールの指定管理者の職場で労災認定勝ち取る。労働審判勝利に向け引き続き奮闘」（山形公共一般）などたまたかや成果が紹介されました。

総理大臣、厚労大臣が「医療機関が赤字のはずがない」などという政府を批判。総選挙勝利で市民の声が届く「当たり前の政府をつくらう」と力を込めました。

参加者から、医療、農業、中小企業、教育、雇用などについて意見が出され、活発な討論となりました。